

Shinran  
500<sup>th</sup>  
800<sup>th</sup>

京都教区

2021年7月1日発行

# 慶讃だより

2021年  
夏号

〽慶讃テーマ〽

## 南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう



- 慶讃テーマから問われてくること
- 教区教化委員長
- 8地区より
- 教区同朋会議開催

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要（きょうさんほうよう）

第1期法要/2023年3月25日(土)～4月8日(土) 讃仰期間/2023年4月9日(日)～4月14日(金) 第2期法要/2023年4月15日(土)～4月29日(土)



## 南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

教区  
教化  
委員

日野 隆文

ひの・たかふみ  
京都教務所長

このたびの慶讃テーマは「南無阿弥陀仏」から始まります。私たちの寺院をはじめ宗門の歴史は、この名号によって開かれました。その名号を正面に掲げ、「私にとって南無阿弥陀仏とは」と名号に込められた本願のお心をたずね直していくことが慶讃法要に向けた一人ひとりの課題でありましょう。

さて、今から三十一年前に亡くなられた吉良兵衛<sup>べい</sup>というご門徒がおられました。八年前に吉良兵衛さんの年忌法要を勤めたとき、故人が遺された詩と初めて出あうことになりました。

ふりかへりみる八十年の山や坂

よろづのご恩に伏して合掌

いまここに一片の悔いも残さず

有り難きかな ただ念仏の聲

昭和五十七年二月 松風 八十三歳

ご子息のお話では、吉良兵衛さんは尋常小学

校卒業後も勉強を続けたかったのですが、家業である農家を継ぐために進学をあきらめたそうです。日々の重労働、苦しい生活にありながらも、ノート代わりに囲炉裏の灰に火箸で字を書いて独学を続けられました。朝夕の勤行は欠かさず、御文はくり読み、寺参りも欠かさずの生活を貫かれました。お内仏の御文の表紙には、摩擦で窪んだ指の跡がくっきり残っています。私が覚えている吉良兵衛さんの印象は、いつも本堂の片隅で静かにお参りされていた慎み深い控えめな方というものでした。その吉良兵衛さんのご法事を縁として遺作に出あい心打たれたのでした。

この詩には、晩節を迎えた吉良兵衛さんが八十余年の長きにわたる人生を振り返り、このかた経験してきた人生の悲喜こもごもの全ての出

来事は、ひとえに私一人を人間として深め育てようとおはたらきくださった如来のご恩であったという、吉良兵衛さんの感慨が表現されているように思います。上り下りのある人生、順風が吹けば逆風も吹く。八十三年間の人生には様々な出あいがあったでしょう。しかし、事の善し悪しではなく、「いまここに一片の悔いも残さず」と自分の人生のまるごとをそのまま引き

受けていくことのできる自分に出あえたのは、ひとえに「南無阿弥陀仏」のお念仏のお育ての賜<sup>たまひ</sup>である、という吉良兵衛さんの深い謝念が伝わってきます。

この詩に出あい、正直、「あなたはどんなんですか？」と問われたように思いました。常に自分の自我分別の眼を依りどころとし、自分が立てる正義を振りかざし、事の善し悪しばかりに囚われている自身のことは差し置いて、あなたもお念仏のお心をわかった如くに振舞っている傲慢な自分を知らされたのでした。本願は常に私に向けられている如来の願心であり、如来に悲しまれているのは他でもない「私」であることを忘れてはいるのです。みなさんはどうですか？

考えてみると「人と生まれたことの意味をたずねていこう」という慶讃テーマのお言葉は、三十一年前に還浄された吉良兵衛さんが聞き続けられた「如来の喚び声」に他ならないと思います。「いまここに一片の悔いも残さず」と人生のまるごとを引き受けることのできる自分に出あわれた吉良兵衛さん。人と生まれたことの意味は、その深い領きのところに開かれてくるものではないでしょうか。

南無阿弥陀仏に  
おさめ取られる私

丹但

松下 蓮

まつした・れん  
丹波第二組延福寺

二年ほど前に前期修練を受けた時、同じ班の方から突然こんな質問を受けました。「真宗の

人はみんな親鸞聖人のことを好きなの？本当に好きで宗祖と言っているの？」と。突然の変わった質問に頭が混乱し、考え込みました。宗祖というのは、好き嫌いの問題ではないと思いましたが。でも、なぜ宗祖と仰ぐのだろう。親鸞聖人はお念仏が大事だということを一生涯かけて人々に伝え、書物にも残された。その生き方を尊敬しているといった感じだろうか。そんなことをその方に返したことを覚えています。なぜ親鸞聖人なのでしょう。お念仏なのでしょいか。

私は、「親鸞聖人がこうおっしゃった」「親鸞聖人の解釈をもって正しい念仏の教えとする」と、初めからそう聞いてきました。親鸞聖人が愚禿と名のられたことで、私も愚かな凡夫なのだと思わなきゃいけないのではないか、そ

んなことを思ったりもしました。自分はそう悪い人間ではないと心の裏では思いながら。そして、親鸞聖人が一生涯をかけて、阿弥陀仏の願いと南無阿弥陀仏の名号で救われることを証明したこと、それを疑問も持たずに「答え」として握り締めてしまっていたのだと思います。そこには私と南無阿弥陀仏との乖離かいりがあります。

思えば、私の一生は、自覚もなしに生を受け、うっかりと、ただなんとなく生きて死んでいってしまふ幻のようなものです。楽しく充実した日々が何よりも一番だと思っても、それも縁次第でひっくり返るような生き方をしています。自分の思っている「生」は自分のものでなく、ひとつも確かなものではありません。そんな生き様でしかない私を常に救おうとする南無阿弥陀仏の教えが、私のものにならないのです。私のための教えが私の中で素通りしていくようでもありません。かつて唯円が親鸞聖人に問うたように、念仏を称なまえていても喜びや安心感というものは湧いてきません。なぜ南無阿弥陀仏が救いの道なのかということが理屈でわかっていても、この身そのものは全然満足しません。そういう私がいくら仏教の教えを学んでみても、親鸞聖人や諸師の教えの「答え」をそのま

ま受け取ってみても、自分の独りよがりの生の中で、救いの実感はわきません。真実を求める心も続かず、保てず、ただ答え合わせだけをしている私があります。本当に知らなければならぬのは、そんな空っぽの私自身でした。そんな何もない私が、脈々と続く浄土真実の法を聞き続け、人にも伝えようとしている。すぐくおこがましいことにも思います。

浄土真宗に帰すれども

真実の心はありがたし

虚仮不実のわが身にて

清浄の心もさらになし

(聖典五〇八頁)

親鸞聖人はこう悲歎されました。この和讃をいただくにつけ、一生をかけて念仏の教えを伝えてくださった親鸞聖人でさえ、私と同じく浄土真実の法の前に立ちつくし、心の底から満足できない自分に悩まれたのではないかと想像するのは、尊敬という言葉だけでは言い足りない何かを感じます。なんとなく、今はそう思います。たまに二年前の質問を思いかえしながら、こうやって、親鸞聖人が残されたお言葉を聞き続けています。

# ● 教区同朋会議開催 2021年6月7日

動画配信中!



何のために生まれて  
何をして生きるのか  
こたえられない方は  
今すぐアクセス! →



**2023**年の慶讃法要に向けて、教区同朋会議が開催されました。「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」という慶讃テーマのいただきを京都教区内でさらに深め、これから各地区・組で開催されるお待ち受け大会・慶讃法要に向けての取り組みを促進していくことを目的としました。出席者は教区会議員・教区門徒会常任委員・教区教化委員等70名でした。緊急事態宣言下にあったためWeb会議システムZoomを併用しての開催となりました。なお、講演の様子は京都教区ホームページ(YouTubeサイト)にてご覧いただけます。チャンネル登録もよろしくお願ひします。



京都教区会館大講堂の様子



井上啓子お待ち受け大会部会幹事 閉会挨拶

真宗大谷派 京都教区 『慶讃だより』2021年夏号  
 発行人 日野 隆文(真宗大谷派京都教務所長)   
 発行日 2021(令和3)年7月1日  
 発行所 真宗大谷派京都教務所 Tel: 075(351)5260  
 〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入  
 Eメール kyoto@higashihonganji.or.jp  
 表紙絵「深き命に目覚め」伊藤はるか

真宗大谷派京都教区ホームページ

京都教務所

検索



## 編集後記

慶讃法要に向けて教区同朋会議が開催されたことで教区や地区、組が取り組みを始める出発点に今、立ちました。これからの取り組みをそれぞれのお寺に、又一人ひとりに広げてゆきたいと思ひます。この取り組みとは、慶讃ということを一ひとりが自分のこととしていただくことです。「人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマが掲げられていますが、このことをたずねることを皆様と一緒に歩ませて頂き、そしてその歩み全体を慶讃法要としたいと思ひます。  
 (教化広報部会 副幹事 沙加戸 崇)